

第1回コンパクトシティ大賞について

公益財団法人都市計画協会

コンパクトシティ大賞の概要

この度、都市計画協会では、各都市におけるコンパクトシティへの取組みを支援する趣旨のもと、「コンパクトシティ大賞」の選考及び表彰を執り行うこととなりました。初回となる今回は、以下の応募要領のもとで表彰対象都市を選びました。

■コンパクトシティ大賞について

取り組みの後押しが急務となっているコンパクトシティ政策について、国土交通省においては各省連携のもとコンパクトシティ形成支援チームを立ち上げ、「健康」「子育て」「稼ぐ力」等の都市が直面する課題・テーマに対して、立地適正化計画及びその他の施策（他省庁の施策を含む）をうまく組み合わせたモデルとなる取組みの普及を推進しています。このような国土交通省の取組みと連携し、コンパクトシティ実現に向けて他の都市のモデルとなる都市を表彰することにより、取組みを支援するものです。

■主催

まちづくり月間全国的行事実行委員会
公益財団法人都市計画協会

■後援

国土交通省

■第1回の課題・テーマ

コンパクトシティ大賞では、毎年度異なるテーマを設定し、表彰対象都市を選ぶこととしています。今回は「健康・福祉」の観点から優れた取組みをする都市を選定しました。

■応募及び選考

立地適正化計画及びその他の施策を組み合わせコンパクトシティの形成に取り組んでいる市町村を対象に募集

し、選考委員会を経て表彰対象都市を決定しました。

■選考委員会

応募のあった計7都市の応募内容について、3月1日に開催した選考委員会で審査を行いました。

<第1回コンパクトシティ大賞選考委員会名簿>

座長	岸井 隆幸	日本大学理工学部土木工学科教授
委員	中井 検裕	東京工業大学環境・社会理工学院教授
	村木 美貴	千葉大学大学院 工学研究科教授
	宇野 善昌	国土交通省都市局都市計画課課長
	杉山 雅英	(公財)都市計画協会業務執行理事



選考委員会の様子

■選考結果

選考委員会による審査の結果、表彰対象都市を以下のとおり選定しました。

◎国土交通大臣表彰

見附市（新潟県）

◎まちづくり月間全国的行事実行委員会会長表彰

飯塚市（福岡県）

■表彰

国土交通大臣表彰の表彰式は、6月16日（金）に開催す

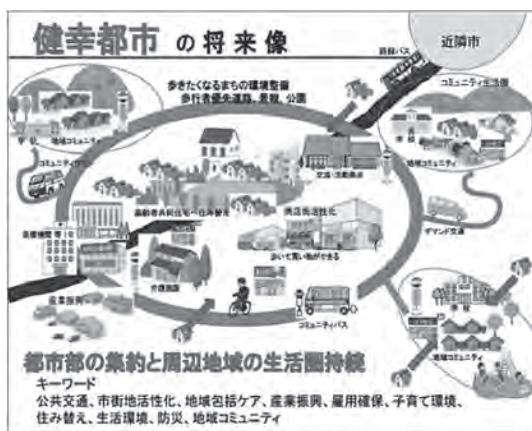
る「まちづくりと景観を考える全国大会」にて行います。

第1回コンパクトシティ大賞 表彰対象都市

●国土交通大臣表彰：見附市（新潟県）

見附市では、人々が健康で、かつ、生きがいをもち安心安全で豊かな生活を送れる状態を「健幸＝ウエルネス」と呼び、目指すべき将来都市像を「スマートウエルネスみつけ」と定め、この理念のもとに、「歩く」ことを基本とした「住んでいるだけで健やかに幸せに暮らせるまち」の実現に向けて取り組みを進めています。

平成14年から健康運動教室を開始し、市民交流センター「ネーブルみつけ」における健康づくり関連拠点などの整備に加え、平成28年8月には高齢者の外出機会の創出にもつながるコミュニティ銭湯がオープンしました。また、これらの都市機能が集積する地区を結ぶコミュニティバスの増便と回遊性の向上を図るなどの施策を行ってきました。さらに、地域コミュニティ組織の活動を支援するために、拠点整備や集落と市街地間の交通手段の確保にも取り組むなど周辺地域の生活圏の持続への取り組みも進めています。



健幸都市の将来像のイメージ図



健康運動教室での運動の様子

その結果、介護認定率は全国平均・県平均よりも低い数値で推移しており、とりわけ、平成22年から24年における県内20市での認定率は1位でありました。また、「歩く」ことを基本とした交通網の整備やその取り組みにより、コミュニティバスの利用者数も年々増加してきております。

●まちづくり月間全国的行事実行委員会会長表彰：

飯塚市（福岡県）

本市は、「人が輝きまちが飛躍する 住みたいまち 住みつづけたいまち～共に創り 未来につなぐ 幸せ実感都市 いいづか～」を都市目標像に掲げ、市民との協働のまちづくりを進めています。

平成22年に策定した都市計画マスタープランにおいて「拠点連携型の都市」を目指す都市の姿とし、中心市街地の活性化に取り組み、「健幸」をキーワードとした都市の魅力創造を図りました。これらのまちづくりの方向性は地元住民や民間事業者の賛同をいただき、医療関連施設及び交通拠点施設、住宅の複合施設である「サンメディラック飯塚」や、健康増進・市民交流の拠点となる「健幸プラザ」等を整備することができました。

現在は、立地適正化計画に基づき、拠点連携型の都市づくりが市民の健康寿命の延伸につながるよう総合的な取り組みを進めています。



サンメディラック飯塚の外観



健幸プラザでの運動教室の様子

第1回コンパクトシティ大賞選考委員会 講評

コンパクトシティ選考委員会 座長
日本大学理工学部土木工学科 教授 岸井 隆幸

当賞は、コンパクトシティの推進に関して他都市のモデルとなる都市を表彰する趣旨にてこの度創設されたものであり、今回は計7都市からの応募があった。

今回設定されたテーマ「健康・福祉」については、高齢化・周辺部の人口減・財政難などが多くの都市でコンパクトシティ化を検討する契機となっている中、地域公共交通ネットワークとの連携により、住民が健やかに暮らせ、万一の際も安心して医療・介護サービスを受けられる環境の実現は各都市で共通する目標であることを踏まえると、初回のテーマとして相応しいものと考えられる。今回の応募都市には、立地適正化計画自体の総合的な完成度の高い都市も複数あったが、選考に当たっては設定されたテーマに基づく要素を重視して検討し、他の模範となる先行事例として以下2都市を大賞に選定した。

「国土交通大臣表彰」に選定した見附市は、立地適正化計画において「スマートウエルネスみつけ」を将来都市像に定めるなど、歩いて暮らせるまちづくりを推進する先駆的な都市である。「健幸長寿社会を創造するスマートウエルネスシティ総合特区」への指定、「都市部と村部が持続できる健幸都市の地域再生計画」の認定、及び健康に関する様々な条例や計画の策定など、他の部署・施策とも連携した全市的な取組みとなっている点を高く評価した。

施策においても、平成14年度から開始された健康運動教室、市民交流センター「ネーブルみつけ」への健康づくり関連拠点の整備、高齢者の外出機会の創出にもつな

がるコミュニティ銭湯のオープンに加え、これらの都市機能が集積する地区とその他の地区を結ぶコミュニティバスの増便により回遊性の向上を図るなどの工夫事例が豊富に見られた。また、地域コミュニティ組織の活動を支援するために集落と市街地間の交通手段としてワゴン車を無償貸与するなど、各集落の居住の持続性にも配慮する姿勢も伺えた。さらに、これらの取組みによって指標としての介護認定率が予想より低率で推移するなど、成果が実際に表れている点にも説得力があった。

「まちづくり月間全国的行事実行委員会会長表彰」に選定した飯塚市は、立地適正化計画の成果を「歩いて暮らせるまちづくりと活発なコミュニティ活動の展開による誰もが実感できる健幸都市の実現」とし、健康寿命の延伸を評価項目に設定するなど、まちづくりにおいて健康の観点が随所に取り入れられている。

施策に関しては、健康づくりの拠点施設「健幸プラザ」をはじめ、健幸・交流広場、歩行者空間の整備などのハード面と、ウォーキングイベントなどのソフト面との融合が特徴的であった。また、中心市街地活性化に関連して整備した建物に医療関連施設を設けるとともに交通拠点としてバスターミナルを一体的に更新するなど、中心部を強化する都市構造再編と健康づくりの施設の整備が適切に組み合わせられている点、健幸プラザについても民間出資のまちづくり会社が空きビルを建替えて整備するなど、民間との連携が図られている点も特に優れていた。さらに、立地適正化計画そのものも精緻に練られたものとなっていた。

当賞では、次回以降も様々な観点に基づくテーマを設定し、コンパクトシティ化を目指す各都市の優れた取組みを紹介し、取組みを支援することとしている。多くの都市からの応募を期待したい。